

□議員名：矢田松夫

1 厚陽小中学校特認校制度について

論点	なぜ、厚陽小中学校に特認校制度を導入しなかったのか。導入の理由、目的、意義を問う。
回答	市内どこからでも転入学を認める制度で、地域と連携した小規模小中一貫校ならではの特色ある教育活動を推進し、児童の増加を図り地域の活性化につなげる。

論点	特認校制度で児童生徒が増えるのかと、地域では一番疑義をもたれ地域と乖離があるのではないか。
回答	この制度が地域の起爆剤として一致団結して学校に協力していただける。それが地域連携、共同活動に結びつき地域の活性化に結びつく。制度が懐疑的とは思っていない。

論点	制度が学校間の地域の分断、地域生活圏の崩壊につながるのではないか。
回答	そのようなことはない。地域で行う活動や学校と絡む行事でも、特認校に行った子供も参加できる。

論点	市内では小規模校がほとんどだが、今後の特認校制度の実施計画はあるのか。
回答	令和7年度から実施する制度事業ですので、効果検証もこれからとなり、今後は制度の在り方について検討していく。

論点	昨年の中学生市議会で、厚陽小中学校に全国から児童生徒を募集してと提案されたが、市内在住からと条件を変更されたことを問う。
回答	少人数教育がすばらしいと自負があると思い全国からと提案したが、山村・漁村留学センター設置や寮を造る準備がいる。早く希望を叶えるためには、速やかに実施したいので市内からと限定した。

論点	関係者全員へプリント等で周知したのか。
----	---------------------

回答	市広報紙に一度掲載した。学校を通じて家庭に個別の周知はしていない。来年度は、家庭に個別に周知していく。
----	---

論点	保護者の送迎負担を軽減するために、バス賃などへの支援を行う考えはないか。
回答	公共交通機関を利用した厚陽小中一貫校への通学は難しいため、通学の安全を確保するために保護者の方への送迎をお願いしている。

2 旧津布田小学校通学スクールバスの運行について

論点	子供の安全対策事業を行うとなれば、一人でも安全にマイクロバスに乗車し学校に送り届けるのが責務ではないか。
回答	近くバス停まで来ていただくのが原則だが、フリー乗降区間の乗降については議論されていない。要望があれば事情を聞いて判断していきたい。